

平成21年 4月 1日現在

研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18203039  
研究課題名（和文）博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する  
先駆的教育・普及理論の構築  
研究課題名（英文）Study of Museum Education Programs through Case Analysis and  
Development of Museum Education Theories Focused on Japanese Traditional Culture  
研究代表者  
井上 洋一（INOUE YOICHI）  
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部企画課・課長  
研究者番号：60176451

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：①先駆的博物館教育理論 ②博物館教育・普及活動 ③古美術 ④伝統文化

## 1. 研究計画の概要

本研究は、期間を4カ年とし、その期間内に日本全国のみならず世界の博物館・美術館で行われている先駆的博物館教育・普及（広報活動を含む）事業事例を網羅的に収集し、その事業内容を分類し、分析を行う。その結果にもとづいて、わが国特有の古美術・伝統文化への理解を深めるための独創的かつ先駆的な博物館教育理論を構築することを目的とする。さらに、博物館が来館者および広く一般の人々に何を発信していくべきなのか、という社会的な課題に対し、博物館が発行する普及（広報）印刷物やワークショップ等さまざまなツールの組み合わせの分析を通し、実践的な博物館教育・普及活動のあり方を提示する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 各方面からの情報をもとに、国内1,140館、国外607館の博物館・美術館に対して教育・普及事業に関するアンケート調査を実施し、それに基づき、参考とすべき教育・普及プログラムを実施している博物館・美術館に

ついて地域別に現地調査を行ってきた。この現地調査により各館が行う教育・普及プログラムの理念とその実施方法等、本研究に必要な多くの新知見を得ることができた。また各館における教育・普及部門のあり方自体をも把握することができ、きわめて有意義な調査となった。また、カナダ、シカゴ、ウィーンで行われた博物館教育・普及に関する国際学会にも参加。本研究に関するきわめて有益な情報を得ることができた。こうした現地調査で得られたデータを整理保存し、収集データの分析を行ってきている。

(2) 新たな博物館教育理論の構築をめざし、現地調査でも多くの研究者と意見交換を繰り返してきたが、東京国立博物館が招聘した研究者とともに研究会を開催。さらに個別に研究会を開催し、博物館教育理論の構築に向けた意見交換を行い、その成果をふまえ、東京国立博物館に特化した教育・普及プログラムを試作し、平成19年4月にオープンした東京国立博物館の教育普及スペース「みどりのライオン」において実施。各方面から好評を得ている。

(3) 本研究の最終年度として、新たな博物館教育・普及理論の構築のために、「伝統文化」をテーマとする国際シンポジウムの開催を来年1月後半～2月前半頃に予定している。現在はその開催に向け、各方面との調整・準備を進めているところである。また、初年度からの成果をふまえ、意義深い博物館教育・普及プログラムを裏付ける博物館教育理論を構築するべく、諸々の資料の分析を進めているところである。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究目標にも掲げた新たな博物館教育理論の構築に関しては、まださまざまな観点からの取り組みが必要であり時間を有する。しかし、全体の研究は、これまでの研究実施計画に則り、おおむね順調に進展している。

### 4. 今後の研究の推進方策

- (1) 各調査の分析とまとめ
- (2) 国際シンポジウムの早期開催
- (3) 東京国立博物館に特化した博物館教育・普及プログラムの明確化
- (4) 新たな博物館教育理論の構築

以上の4項目達成に向け、本研究参加者全員が全力で取り組み、最終年度にふさわしい研究報告書をまとめる予定である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

① 加島 勝、表慶館「みどりのライオン みんなで楽しむ教育スペース」の開設について、MUSEUM、査読有、No. 611、2007、3-7

② 小林 牧、みどりのライオン 教育普及活動について、MUSEUM、査読有、No. 611、2007、9-26

③ 鈴木 みどり、デンバー美術館の教育普及事業—ミュージアム・エデュケーションからミュージアム・エクスペリエンスへ—、MUSEUM、査読有、No. 611、2007、27-46

④ 藤田 千織、博物館における鑑賞補助ツールの役割—「親と子のギャラリー」を例に、MUSEUM、査読有、No. 611、2007、47-73

⑤ 神辺 知加、「子供のための文化史展」について—東京国立博物館の教育普及事業史研究 敗戦直後—、MUSEUM、査読有、No. 611、2007、75-91

[雑誌論文] (計 4 件)

① 鈴木 みどり、デンバー美術館などに見る教育普及事業の新たな動き、地域創造「アートミュージアムラボ青森セッション」、2008年7月17日、青森県立美術館

② 鈴木 みどり、ワークショップ：ミュージアム・プログラム『和とじでつくる海の博物図譜づくり!』、九州大学ユーザーサイエンス機構巡回展「クジラとぼくらの物語」、2008年9月27日、西新プラリバ

③ 鈴木 みどり、Educational Activities in the Tokyo National Museum - three approaches -, Glasgow Museums 研究会、2008年3月16日、Glasgow Museums (英国)

④ 鈴木 みどり、Educational Activities in the Tokyo National Museum - three approaches -, Victoria and Albert Museum 研究会、2008年3月19日、Victoria and Albert Museum (英国)